

## Vol.18

発行元：NPO法人22世紀  
八幡ルネッサンス協会  
八幡市八幡高畑 10-76  
TEL・FAX 075-981-6505  
発行：年 4 回

知る・見る・考える  
八幡市民の  
交流誌

# きずな

## 八幡に 活きる

男山で地域と文化と  
産業の明日を想う

宮澤 規之

### ◆ 目 次 ◆

|             |      |
|-------------|------|
| 八幡に活きる      | … 1  |
| 弥生の至宝       | … 2  |
| やわたしぜんだより   | … 4  |
| 活かそう水辺      | … 6  |
| 気候変動と「気候危機」 | … 8  |
| けんこう農房で遊ぶ   | … 9  |
| 書評          | … 10 |
| 八幡 俳句歳時記    | … 11 |
| きずなの文芸      | … 12 |

Q. 自己紹介をお願いします。  
「埼玉県生まれ、当年四十歳  
同志社大学の出身です」  
Q. 八幡市にいらした経緯は？  
「大学卒業後、京都市内から樟  
葉に転居し、その後、男山団地  
の眺望を求めて参りました」  
Q. 渡部医院笑劇場との関係は  
どこから？

「よく行く喫茶店で、渡部院長  
に知り合ったことがきっかけに  
なり、若手の立場から男山を盛  
り上げることになりました」  
Q. とはいえ、元々地域興しに  
関心があったようですね。  
「全然。ただ、和洋文武の芸事

に恵まれた環境に育ったので、  
人と繋がる引き出しには自信が  
ありました。また、身寄りもな  
い中で自分の居場所ができるな  
ら、私にとっても幸いであらう  
との思いもありました」  
Q. 劇場では、ひとりで行くつ  
もの芸を披露しているとのこと  
ですね。

「当初、裏方の予定だったの  
ですが、出演者の若手不足が深  
刻だとわかりました。そこで、  
私のいろんな姿が人目に触れら  
れれば、若者への刺激になるか  
など期待したわけです」  
Q. おばちゃんキラーとさえ言  
われるほど知られてきています  
が。

「八幡以前からです（笑）。そ  
れが、若手・親子・孫子の地域・  
文化活動に繋がったら嬉しいで  
す」  
Q. 話していると、女性的な印  
象を受けます。言われること  
は？

「稽古での女の立姿が素で出  
るようになったのか、初対面の  
男性は色々思うようですね。な  
んとでもどうぞ（笑）。」  
Q. 今後の展望は何でしょう

か？

「地元で雇用を生み出すこと  
です。私に限らず、誰かが取り  
組まねば若手の人材が流出して  
しまいます」  
Q. 地域興しと文化活動と来て、  
次は雇用ですか。

「雇用に限らず、社会問題は  
景気さえ良ければ解消される筈  
です。町内会の物置に盆踊りの  
提灯が山積みになっています。  
好景気の頃、企業がこぞって寄  
贈したのですが、今はぼろぼろ  
です」  
Q. 読者の方へ何か一言を。

「なにはなくとも芸を磨けば  
自信になり居場所ができます。  
私のできることはなんでも教え



ますのでどうぞ気軽にいらして  
ください」

インタビュ後、ハープの  
音色を聞かせてくださいまし  
た。パツヘルベルの「カノン」  
やマックススウェルの「引き潮」  
にうつとりさせられたもので  
す。和の芸能では、京舞の篠塚  
流に打ち込む傍ら、能の仕舞に  
も挑戦。写真は11月14日に、大  
阪の朝陽会館で催された「遊楽  
合同謡曲会」で、仕舞「田村」  
を演じたときのものです。コロ  
ナ禍が終息し、渡部笑劇場が再  
開されるのを期待しております。  
(文・土井三郎)



## 銅鐸の話いろいろ(2)

濱田博道

### ①最後の銅鐸

弥生時代中期に豊作を願う祭祀の道具として作られた銅鐸（聞く銅鐸）は、後期になると、富を蓄積してきた地域どうしの同盟や首長の権力のシンボルとしての「見る銅鐸」にかわっていきます。吊り手の鈕も菱形のものから変化していき、周りに突線をもったものに。高さも20cmぐらいだったのが最後には巨大化し1mを超えます。そして2世紀の終わり頃、忽然と姿を消します。

今回は「銅鐸の時代」が終わる直前の弥生時代終末期に使用された銅鐸を二つ三つ見てみたいと思います。その最後の銅鐸の名は、「突線鈕5式銅鐸」です。（八幡の式部谷銅鐸は「突線鈕3式銅鐸」ですから「5式銅鐸」より「2式」古い（約半世紀古い）銅鐸になります。）

この銅鐸は、東は静岡県から西は兵庫県まで、南は和歌山県・徳島県まで分布しています。（ただし、なぜか奈良県からの出土はないよう

す。）その中で、現存する最大のものは滋賀県野洲町大岩山出土1号銅鐸で、高さ134cm、重さ45kgあります。（左画像）式部谷銅鐸の約2倍の高さです。



→現存する最大の銅鐸  
大岩山1号銅鐸 高134cm  
東京国立博物館所蔵  
<https://cobasenich.go.jp/>

### ②京都府出土の5式銅鐸

京都府では日本海側の与謝郡比久尼城から「5式銅鐸」が1個出土しています。この地域で銅鐸は2個出土したのですが、1個はお寺の梵鐘改鋳時に鋳潰してしまい、どういう型式のものかわからなくなっていました。現存する銅鐸は現在、京都国立博物館所蔵になっていて、次のように解説されています。

「江戸時代に、梅林寺の近くの比久尼城から出土したと伝えられる銅鐸である。銅鐸は、鈕が吊手としての機能を失う過程に従って4型式に大

別できるが、本鐸は、そのうち最も新しい突線鈕式に属する。さらに細かくいえば、突線鈕式の中でも最も新しい5式に比定できる。この段階になると、全長1mを超える大型になり、身には突線と呼ばれる太い線が縦横に飾られるようになる。この梅林寺所蔵鐸は、同型式の銅鐸の中でも保存状態が非常に良好であり、当時の製造技術を考えるうえでも極めて貴重な資料である。

高107・0cm 弥生時代後期（3世紀） 京都府与謝郡野田川町比久尼城出土 京都府 梅林寺 重要文化財（京都国立博物館IPより）



→梅林寺（5式）銅鐸  
梅原末治『銅鐸の研究』  
大岡山書店より

### ③高槻市出土「4式銅鐸」

八幡市近辺で「5式銅鐸」は発見されていませんが、その一段階前の「4式銅鐸」（109・2cm）が1770年代前半の江戸・正徳年間に三島郡清水村（現在の高槻市天神山付

近）から出土したと伝えられ（天神山からは「2式銅鐸」（63・7cm）も出土）、画像が残っています。高槻市では旧京都大学農場一帯が弥生時代の巨大な安満遺跡です。近年安満遺跡公園として整備されています。「4式銅鐸」は現在、アメリカ・ロサンゼルス美術館所蔵になっており、残念ながら見ることはできません。

（伝）高槻市天神山出土

「突線鈕4式銅鐸」

高109・2cm



→ロサンゼルス美術館所蔵  
梅原末治『銅鐸の研究』  
大岡山書店より

銅鐸海外流出の話でいえば、八幡の式部谷銅鐸も海外に売られる寸前でした。次のような記述があります。「式部谷で、昭和30年ごろ（37年）に工事中に銅鐸が出土した。（中略）この銅鐸は工事人夫によって淀の廃品回収業者に売られ、しばらくの間廃品とともに雨ざらしで置かれていたという。それを見つけた人が銅鐸ではないかといいた。だが、

✓その直後に大阪の古美術商が入手し、アメリカ人に売られるという情報を耳にした。ぼくは何とか日本に残そうと努力し、幸い大阪の正木美術館が入手して事なきをえた。(森浩一『京都の歴史を足元からさぐる』学生社)」

同志社大学の森浩一先生らの努力で、式部谷銅鐸は間一髪のところまで日本に残りました。それにしても銅鐸が廃品回収業者に売られたというのは、私たちがもつと文化財やその意義について知り、交流する必要性を感じます。

#### ④徳島県矢野銅鐸

2016年(平成28)12月徳島市国府町を訪れました。国府町という名は古代・律令国家の時代、阿波国の国府がこの地に置かれていたことに由来し、ここが由緒ある地であることを示しています。それにとどまらず、この地からは古い縄文時代の遺物も160点ほど出土しており、それらは国の重要文化財に指定されています。また、弥生時代に徳島県内の中心的な役割を果たした巨大な集落(矢野遺跡)があります。

国府町を訪れた目的は二つありま

↓矢野遺跡出土の銅鐸オブジェ  
徳島県埋蔵文化財センターにて筆者



した。一つは矢野遺跡から出土した「5式銅鐸」を見るためです。

徳島県のホームページによると、「徳島県は銅鐸の多い地域で、全国で発見されている銅鐸の約1割、50個近くが発見されている」とのことです。銅鐸の出土数が一番多いのは兵庫県で60個を超え、続いて島根県で50半ばの個数。さらに徳島県、滋賀県、和歌山県と続き、出土数は各40個を超えています。京都府は14個です。

多くの銅鐸が出土している徳島県。その矢野遺跡で、1992年、完全な形で「5式銅鐸」が発見されました。高さ97・8cm。丘陵上からではなく弥生時代の集落(約百棟の住居)内から出土。木製容器に鱗を上下にし

て容器に納めて埋められ、土坑の周りには7本の柱穴も確認されました。銅鐸は現在、国の重要文化財に指定されています。



↑矢野銅鐸出土時 徳島県 HP より  
(<https://www.pref.tokushima.lg.jp/rekishiru/remains/5022970/>)

国府町を訪れたもう一つの目的は矢野遺跡から700mほどの離れた丘陵上にある徳島県で最も古い前方後円墳・宮谷古墳(3世紀後半築造、37・5m)から出土した三角縁神獣鏡(卑弥呼の鏡候補とされる)を見るためです。驚くことに、出土した3面中の1面は八幡の古墳から出土した鏡の一つと形・大きさ・文様が全く同じ鏡(同範鏡)でした。(この話は後日、詳しく述べる予定です。)弥生時代後期の銅鐸と古墳時代前期の銅鏡の点で八幡との類似点があり、注目されます。

#### ⑤おわりに

8回にわたって弥生の至宝・式部谷銅鐸とその時代(弥生時代後期)について考えてきました。しかし、銅鐸についてはわかっていくことはごく一部です。今後の研究を待ちたいです。今回のシリーズでは、「聞く銅鐸」の絵画や文様、変遷などについて十分述べるのができなくて、心残りの点がありますが、今後も皆さんと八幡の弥生時代や銅鐸について学習し、ともに考えていけたらと思っています。ありがとうございます。(完)

# やわたしぜんたい

## 公園や庭で野鳥観察

No.8 山村 元秀

コロナ禍でもできる身近な自然観察を紹介します。冬は葉が落ちて野鳥を見つけやすい時期です。河川や林には冬鳥がたくさん飛来してきます。身近なところにいる野鳥がわかるようになると冬場の楽しみが増えます。背割り堤では宇治川で泳いでいるキンクロハジロやカワアイサ等のカモの仲間が観察でき、石清水八幡宮周辺では掲示板に記載されているようなカラ類の混群を見る事ができるようになります。

カラ類の混群を見つけよう！

秋から冬の間、森の野鳥観察のポイントはカラ類の混群を見つけることです。シジュウカラ、ヤマガラなどのカラ類に、エナガ、メジロ、コゲラ、ムシクイ類など、いずれも昆虫食の小鳥達が共に群れをつくり森の中を移動します。



シジュウカラ

男山、美濃山地域に多く、平地から山地、市街地の林に生息し、木の実、小昆虫を主食としています。



メジロ

住宅地や公園で1年中見ることができます。1羽で来ることも、数羽の群れで来ることもあります。木の実や花の蜜を好みます。



ヒヨドリ

1年を通してよく公園や住宅地に飛んできます。花の蜜をすったり、果実を食べたりしますが、鳴き声が大きいのが困ります。



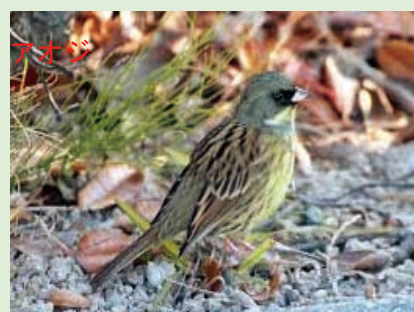
キンバト

1年を通して公園や住宅地によく見ることができる野鳥です。警戒心が弱く、すぐ近くで見ることができます。



ジョウビタキ

冬鳥で、近くの家の中にもよく見えます。黒い羽に白い部分があり、紋付き鳥と呼ばれています。縄張り意識が強く、1羽で行動します。



アサギ

冬になると、石清水八幡宮の参道の林の下でエサ（草の種）を探しているのをよく見かけます。



ツグミ

秋から春に飛んでくる冬鳥です。堤防や田んぼでよく見えます。地上に降りて歩く時の姿勢がとても良いのすぐわかります。



シロハラ

冬鳥で、石清水八幡宮周辺の林でよく見かけます。腹部が白く、地上でエサを探していることが多いです。



ヤマガラ

エゴノキの実が好きで、人なつっこい鳥です。手に止まって餌をとることもあります。で種子を好みの場所に貯食します。

# 冬芽をさがそう



葉を落とした落葉樹は一見するとさみしげな枯れ木のようにですが、よく見ると春に向けて万全の体制で冬を耐えています。冬季に落葉樹の命をととてもよく実感できるのが「冬芽」です。

上着をしっかりと着て、虫眼鏡片手に出かけてみてください。私たちの先祖にとって冬芽の観察は、冬季に樹種を見分け、薪などの生活資材を手に入れるための大切な手段でもあったことでしょう。そんなことも考えながら、いろんな「冬芽」と楽しい形「葉痕」を観察してみましょう。

## 冬芽は防寒対策

—冬の寒さを乗りきるいろいろな工夫があります—

葉や花になる芽を冬の寒さや乾燥から守るために色々なタイプのカバーをつけています。いろいろなタイプのカバーを組み合わせている冬芽もあります。

### ウロコでおおう

何枚ものウロコのような皮でつつまれている



### コナラ

ツブツブ模様の殻斗をしたドングリをつける木です。

### キャップをかぶる

1枚から数枚の大きな皮でつつまれる

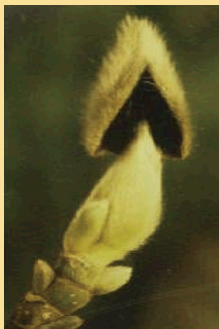


### ネコヤナギ

川辺に自生し、春の訪れを知らせてくれる樹木として親しまれてきました。

### 毛皮でつつむ

暖かそうな毛皮でつつむ

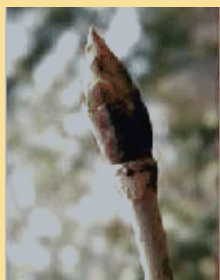


### モクレン

様々な種類がある古くから愛されている花木です。

### ベタベタのカバー

ヤニやロウをつける

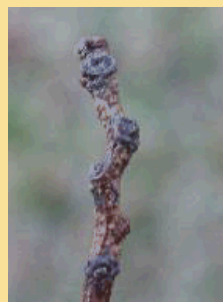


### トチノキ

山林の川筋に多い木です。1ヵ月以上もかけてあく抜きをして作ったのが栃餅です。

### もぐって過ごす

枝の中、葉のつけ根などにうもれてかくれる



### ネムノキ

空き地や河原によく生えています。

## 冬芽と葉痕のゆかいなコンビー表情豊かな冬の顔—

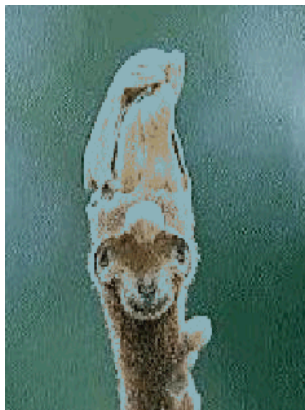
枝に残る葉の落ちたあとを「葉痕」といいます。葉とつながっていた維管束の跡があり、これが動物の顔のように見えるものがあります。なんの顔に見えますか？

### クズ



どこから見ても人の顔。いろんな表情があります。

### オニグルミ



冬芽は褐色の短毛に覆われた裸芽で、葉痕は羊の顔のような形。

### ポプラ



冬芽は長卵形の尖がり帽子で、葉痕は何となくユーモラスな顔。

### ソメイヨシノ



葉痕は隆起した三角形。3つの維管束痕の2つが目に見えます。

## 活かそう水辺、つながろう流れ ～流域連携 自助・共助・公助～

NPO 法人日本水防災

普及センター理事長

澤井 健二

### ①洪水から命を守る避難

前号で、流域治水の内、ダムや遊水地など、主としてハード（施設）対策のことを述べましたが、一方で、住民が自ら命を守るための重要な手立てとして、「避難」があります。避難を円滑に行うには、いつ、どこへ、どのように避難するかを的確に判断し、行動する必要がありますが、そのためには、まず、避難に関する事前的知識と情報が不可欠です。

避難に関する知識として、極めて有効なのは、過去における災害の伝承です。どこで、いつどのような災害があったかを知り、自分の周りですべて同じようなことが起きるかもしれないイメージでいることが重要です。そして、その場合には、いかに行動するのが良いかを前もって考え、できれば模擬体験しておくことが有効です。もちろん、災害は想定したシナリオ通りに来るものではありません。いざという時には、臨

機応変に対応する柔軟性も必要ですが、事前の備えがあるのとないのでは、大きな違いがあるでしょう。

近年は、どこの町でも「浸水想定氾濫区域図」や「ハザードマップ」が作成され、想定した規模の洪水時でどこがどの程度浸水するかや、指定避難所の位置などが示されています。しかし、指定避難所へ行くのに、どこを通っていくのが望ましいかや、その途中にどのような危険があるかなどは、広域のハザードマップには示されていません。そのようなローカルな情報は、学区ごとや町内会ごと、さらには家庭ごと、個人ごとに検討して、ハザードマップに書き入れておくことが極めて有効です。これらは、行政から出されるハザードマップと区別して、「マイ・ハザードマップ」と呼ばれています。

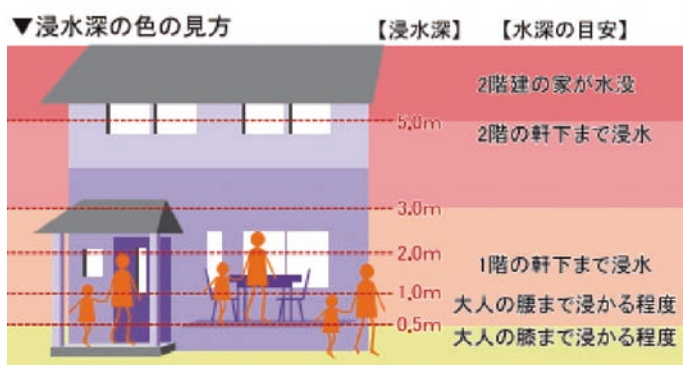
また、災害前後のどの時点でもどのような行動をとるべきかを時系列的に整理したものを「タイムライン」と呼び、行政機関用には既に作成されていますが、それを個人用に作成したものを「マイ・タイムライン」と呼んでいます。マイ・タイムラインには、例えば、テレビやスマホなどで台風情報を受信したときに、どのような行動をとるかとか、行政か

らの避難情報が出た時にはどのような行動をとるかなどを、個人ごとに詳細に書き込みます。

しかし、頭の中でいろいろな状況を想定して避難計画を立てていても、それを模擬体験しておかないと、いざという時になかなか行動につながらないです。そこで、避難訓練が欠かせないのです。

八幡市が発行した『防災ハザードマップ（平成30年改訂保存版）』の12・13ページを見ると、「木津川浸水想定区域図」が示されています。指定の前提となる降雨として「木津川加茂地点上流域の12時間総雨量が358mmと想定した場合」としていますが、それによれば、八幡小学校区、中央小学校区、有都小学校区の殆どと橋本小学校区の一部で2階建の家が水没することがわかります。また、「浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水する場合や、想定される浸水が実際と異なる場合があるので注意してください。」とあります。各家庭に配布されたハザードマップでは是非ご確認ください。

右下の写真は平成25年の台風18号による浸水被害の様子（橋本地区）で、左はハザードマップより転載しました。



## ②自助・共助・公助

ところで、防災・減災における支援のあり方として、よく自助・共助・公助という言葉が使われます。八幡市の例でいえば、「公助」は市役所からの情報提供や、避難所の開設等がこれに当たります。「共助」はもう少し狭い地域、例えば学区の自主防災会や町内会規模での助け合いです。さらに狭い地域、例えば隣近所での助け合いについては、「近助」という言葉が使われる場合もあります。さらに小さな組織での助け合い「自助」といえば、「家族」がありますし、さらに突き詰めれば、「個人」ということになるでしょう。古くから「津波でんでんこ」（個別行動の原則）という言い伝えがありますが、これは本来に差し迫った危険に遭遇した場合の対応であり、できればそうなる前に、家族あるいは近所同士は助け合ってお互いの安全を確保したいものです。そのためには、普段からのお付き合いが大切で、行き過ぎた個人主義に陥らないよう、工夫が必要であるように思います。

## ③広域連携の必要性

さて、ハザードマップが学区ごとで作られていたり、避難所が自治体ごとに運営されていたりすることが多いのですが、学区や自治体の境界付近では、その境界を越えて避難する方が安全である場合が生じます。そのような場合には、隣接する学区や自治体間で相互乗り入れのなされることが望まれます。

また、河川災害の場合には、上流と下流、あるいは対岸同士で利害の反することがあるので、それらを包含する流域全体の視点から治水を考えることが重要です。八幡市の例でいえば、前号でも述べたように、木津川の上流は奈良県、三重県にまで及びますし、淀川の下流は大阪市にまで及びます。また、三川合流部に流れ込む宇治川や桂川も木津川と影響し合っているのです。そこで、流域治水の考え方が重要になりますし、さらに流域圏にまたがった広域連携が必要になる場面もあるでしょう。

## ④舟運の歴史と復活

かつて、河川の上下流や対岸の交流において欠かせなかったものとして、舟運があります。

現代の我が国では、人の往来には鉄道や自動車、物資の運搬にはトラックが主流になっていますが、かつては、多くの河川で舟運が栄えていました。木津川においても、その名の由来である「木津」は、古代から近世に至るまで、木津川舟運の拠点として栄え、奈良県の藤原宮や平城宮に建築資材を陸揚げしたことに由来しています。また、渡し船も重要な交通手段であり、奈良街道の上粕、木津間は「木津の渡し」で結ばれていました。また、「草内の渡し」（別名：十六の渡し）は、河内・大和方面から宇治田原に出る主要な渡しでした。八幡市付近では、「山崎の渡し」や「狐の渡し」が有名です。淀川本川沿いでは、現在、枚方、八軒家間に三十石船が復活していますが、最近、「淀川沿川まちづくりプラットフォーム」において、さらに伏見までの舟運復活の議論がなされています。

これら舟運による継続的な人流物流は、いつの時代にあっても対岸や上下流域の情報を運び、その情報交換の蓄積が流域連携を深めます。流域の地形や景観、季節や天候、時間帯ごとの流動量やその形態は舟運文化を一層深化させて、舟運が人を育みながら、水辺や河川の日常的な

ウォッチャー（監視役）としても、小さな気付きを防災減災に結び付けることに繋がり、自助・共助・公助の質を高めることにもなるでしょう。



背割堤船着場と淀川舟運社会実験（淀川河川事務所資料より）

## 気候変動と「気候危機」

佐藤 長作

2021年、真鍋叔郎さん他2名は、ノーベル物理学賞を受賞しました。気候変動研究の成果が評価された結果です。

### ◆温暖化は人間活動が原因

2021年8月に発表された国連の「気候変動に関する政府間パネル」(IPCC) 第1作業部会第6次評価報告書は、人間の活動が地球温暖化に与える影響について「疑う余地がない」と断定しました。

「地球温暖化とは、人為的な要因によって温室効果ガスが増加して温室効果が強化され、地球の平均気温が上昇する現象のことである。人為的に放出された二酸化炭素のうち半分程度は、陸上の植物や海洋によって吸収され、残り半分が大気中に留まっていると考えられている。メタンは微量成分であるが、単位質量あたりの温室効果が大きく、水蒸気を除けば、二酸化炭素の次に大きい温室効果を生じさせている。メタンは、ツンドラや湿地における有機物の分解

によって放出され、また、家畜の吐く息にも含まれている。フロンはオゾン層を破壊する人為起源の物質であるが、温室効果も持っている。一酸化二窒素も温室効果を持ち、農地などの土壌から放出される。また、対流圏オゾンにも温室効果がある。」(『基礎から学ぶ気象学』(東京学芸大学出版会) から引用) と定義され、温室効果ガスについて述べています。温室効果とは、温室効果ガスが、太陽光で暖められた地面からの赤外線のエネルギを吸収して大気と地表を温め、温室の役割を果たします。地球の直径を、1メートルとすると、対流圏は、0・8ミリメートル程です。実際は、10キロメートルほどですが、この部分に熱が閉じ込められているといえます。因みに温室効果がない地表面の温度は、マイナス18度とされています。

### ◆温暖化が止まらない

地球温暖化による気温の上昇は、北半球の高緯度域で特に大きくなり

ます。これは、海水や氷河などの氷の融解が進むことにより氷の面積が減少し、反射率が低下します。その結果、日射をより多く吸収するようになり、ますます温暖化が進みます。氷の反射率は85% 水は7%。いかに氷の反射率が高いかがわかります。グリーンランドの最高地点に、9時間にわたり雨が降るというニュースがありました。標高3216メートル地点で気温が0度以上になったことであり、ますます氷床が減少していく現象だと感じます。南極でも氷河の流れが25年間で急加速している報告があります。

永久凍土の融解が進んでいる報告もあります。永久凍土は2年以上温度が0度以下である地中に出来きます。海外はもちろんです。日本にも大雪山、富士山、立山の3カ所に存在します。温暖化で今世紀末には消失する可能性があります。

温暖化により、メタンハイドレートが溶け出せば急激な温暖化が指摘されています。

### ◆全世界、全人類の課題として

温暖化がすすむことにより生態系が破壊され食糧難、水不足など深刻な状況が想像されます。海の温暖化

は小魚、プランクトンの減少を招いています。生態系のバランスが崩れると色々なことが発生します。

日本の脱二酸化炭素に対する取り組みは、石炭火力発電に対する姿勢が世界的に批判されています。石炭発電所建設、しかも海外輸出。これらが世界から批判されているのです。2030年には稼働真最中です。どうしてこれで「脱二酸化炭素」なのか？

『京都府民だより』11月号の特集「今こそ考えよう気候変動」の中で二酸化炭素排出量を家庭、業務、運輸、産業部門に分けると、家庭からの排出は全体の2割以上を占めると説明されていました。家庭への削減の呼びかけは理解できますが、他分野で8割近くを占めるのですから少し論点が違うのではないのでしょうか。産業界に対してなんの言及もありません。

日本の二酸化炭素排出量は世界で5番目、上位5カ国で6割近い排出量です。排出量削減に真剣に向き合う必要があります。

## けんこう農房で遊ぶ

福川 肅

## ◆F1種と固定種・在来種

私が「月1回は百姓をやっている」と言っていると、知人や仕事関係の人から「想像できない」という答えがよく返ってきました。そんなシテイボーイの私が鎌を手に、放置された草ぼうぼうの畑に立ったのは7年前です。農村の過疎化で限界集落となり、里山が荒れているなら、都会の人間がそこで遊べる農業をやってみたら少しはマシになるのではないかと、というのが動機の一つでした。その気持ちを後押ししたのが、固定種・在来種の存在です。

私たちが普段食べている野菜は、ほとんどがF1種と呼ばれるもので、一代限りの野菜です。つまり、花が咲いて実が成り、種を採っても、その種は育たないか、育っても栄養価のない歪なものになります。なので、農家は毎年JAから種や苗を買い、セットで除草剤、肥料、農薬を手に入れます。そうしないとスーパースーパーに収まる規格に合った野菜が育たないのです。それでも2割ほどは規格外となり、自分たちで食べるか、



処分されます。

固定種・在来種は世代を繋いで育ち、その土地の風土に合わせて実ります。二代目、三代目と世代を重ねることに丈夫で味わい深い野菜になっていきます。もちろん、除草剤や農薬は不要です。それでも「肥料と水やりは必要やで!」と、農家の方には言われましたが、面倒くさいのでやめました。肥料もやらない、水もやらない。そもそも耕さない。あくまでも自然に任せる、土の力に任せる、そんな楽ちんな農法を考えたのです。名付けて「縄文農法」です。

## ◆土の力で育つ

「NPO法人 里山・限界集落けんこう農房」を立ち上げ、兵庫県丹波市で10年以上放置されている約1反の畑を無償で借りてスタートしまし

た。鎌で適当に草を刈り、鍬で地面に穴をあけて種を下ろします。あとは収穫時期まで月1回の草刈りだけです。「百姓ほど楽なものはない」にしないと、仕事をしている都会の人間は集まりません。草の中に棲むバッタやコオロギ、地面を歩くサワガニやイモリ、土の中には太いミミズやオケラもいます。彼らの糞や死骸は養分となり、そこへ刈って枯れた雑草も加わり、土は肥料を与えなくても元氣になります。その土の力で野菜は育ちます。そして、水をやらなくても固定種・在来種の野菜たちは頑張ります。その土地の風土や気候に合わせて育っていきます。世代を重ねるほどにその土地になじみ、立派になります。

## ◆丹波から丹後へ

けんこう農房は、5年間活動した丹波市から2年前に京丹後市へと移りました。京丹後市弥栄町味土野（あじの）です。ここは戦国時代の「本能寺の変」ののち、細川ガラシャが2年間隠棲した所です。今でも隠れるにはもってこいの山奥にあり、人口2名の超限界集落です。土中の農薬や除草剤

がすっかり消えた、私たちが求める長年放置された田畑が山中に点在します。そのいくつかを無償で借りして、主に黒枝豆・黒豆、赤米、蕎麦、赤菊芋、秋ウコンなどを現在は栽培しています。味は評判ですよ!

当然、イノシシやシカ、キツネやクマが日常的に出没する所なので、柵で獣害対策はしていますが、二度ほど収穫前にすっかり食べられたことがありません。ショックでしたが、無駄ではなく、これも自然の仕業だと、妙に納得しています。

4月から11月まで10〜15名のメンバーが京都、大阪、神戸から1泊2日でやって来ます。みなさんも、遊んでみませんか?



## ◆ 書評 ◆ 土井三郎

## 『牙 江夏豊とその時代』

(後藤正治 著)

講談社、2005年

講談社文庫のブックカバーに、次の文章が付されている。

「縦編のユニフォームの男。投手・江夏。みんな彼のことを憶えている。現役生活18年。通算成績206勝158敗193セーブ。そしてあの21球。長嶋がいて王がいた。村山がいた……。グラウンドが真剣勝負に満ち、日本中が燃えていた時代を知る者のみならず、全ての野球ファンに捧げる傑作ノンフィクション。」

この文章を読んで少なからず心動く者は、いわゆる団塊の世代に属する者であろう。1949年生まれの私も、そして二歳年上の後藤氏も世に言う「団塊の世代」である。中学から高校、そして大学に入ってから、確かに長嶋、王がいて、江夏がいた。

私は、「団塊の世代」などと一括りにされることを快く思わない。尊敬すべき人もいれば軽蔑したい者もある。だが、それ以降の例えば「就職氷河期」の者たちからすれば恵まれ

ていた。経済が右上がり、職はどこにも転がっていた。

それは働く環境が整っていたということではない。劣悪な職場環境もあり、パワハラも横行していた。なのに、「猛烈社員」等という言葉に踊らされ、働くことへの懐疑などなかった。

プロ野球は、プロレスや競馬と同様に娯楽の王座であり続けた。むしろパチンコも流行った。それは心理学でいう「代償行為」と言つてよい。

仕事の後、飲み屋で長嶋、王、そして江夏のことが話題になった。上司の悪口を言う点でいささかのわだかまりがあっても、長嶋や江夏のことは共感しあい盛り上がった。これも、共通の話題で一体感を味わいたい心理が働くからなのであろう。

北陸生れで、正力松太郎が御当地の富山では俄然、読売ジャイアンツがダントツの人気チームであった。県営球場には毎年読売巨人軍がやってきた。

高校生のころ、下校時に球場に立ち寄ったことがある。すでに、勝敗が決していた終盤で、チケットを買わずに三塁側観覧席に入ることができた。

サードに長嶋がいて、ショートに

広岡がいた。相手チームなど憶えていない。常勝ジャイアンツは難なく勝利を収めていたと思う。

だが、関西に就職が決まると、巨人ファンであることにいささかの肩身の狭さを味わった。阪神ファンであることが野球談議の前提なのである。むろん駄目トラの不甲斐なさやばやくのも含め、彼らは愛すべき阪神タイガースファンなのである。

そんな彼らと一体感を味わいたい心理もあつたからか、巨人ファンから阪神ファンにあつさりと宗旨替えした。例の、「江川問題」がきっかけだったように思う。江川が無様（みさま）に見え、犠牲になった小林が格好良く映った。

もちろん、判官びいき的な感情もある。大鵬より柏戸、源氏より平家。関根金次郎より坂田三吉。ならば巨人ファンでは居心地が悪いのだ。これを反骨精神というなら、その反骨精神とやらを大いに鼓舞し、吹聴したい。

随所に、著者である後藤正治氏の肉声が聞こえてくる。団塊の世代として、そして生きにくい時代に対する、屈折した思いが吐露されるのだ。

——トロッキー、ゲバラ、毛沢東

吉本隆明……。そのつど彼らの著書から引用したつぎはぎだらけの衣装をかぶりつつ、どれも借り物だと自身が感じている。ここに、前世代との相違があつたように思える。すでに《社会主義》も《戦後民主主義》も色褪せた紋章でしかなかった。

——(1969年)この年の暮れ、私は二十三日ぶりに上野署の留置場から起訴猶予ということで釈放された。(佐藤首相の訪米を阻止せんとする)「十一月決戦」の一員としてノンセクトのデモ隊に加わっていたが、羽田は遠く、夜間、蒲田駅付近で機動隊に蹴散らされ・・・手錠を掛けられた。

同書は、後藤氏にとって、あの時代への鎮魂歌でもある。江夏とは住む世界が違ったが、時代に抗う点で同時代を生きた者へのなにがしかの共感のメッセージに似たものを感じるからである。

ついでに言えば、私は江夏の野球解説が好きだ。阪神びいきだが、相手チームの選手をリスペクトする。努力を怠らず、技を磨こうとする選手を認め尊敬するのである。

# 八幡俳句歳時記 14

猪食うて川瀬の瘦せる

音に寝る

公益社団法人俳人協会評議員  
大阪俳人クラブ理事・  
俳誌「ひこばえ」主宰

小河洋二

## ◆熊野の庵の四半世紀 (珍しい季語三昧)

平成5年に職を退くのを契機に、熊野の口とも言える串本町に小さな庵を構えて4半世紀となる。妻も弊誌「ひこばえ」に参加していて、初歩的な俳句ではあるが、吟行者として同行していた事を昨日のように思い出される。

### 〈第一句集「深熊野」 平成21年〉

主に、熊野の情景を中心としている。

残念なことに、平成21年の秋に闘病の甲斐もなく黄泉の国へ旅立ったが、熊野を訪れる際は今も、同行しているように思えて句帳は2冊を携えて行くことにしている。

また、平成21年5月に俳句誌「ひ

こばえ」を継承して現在に至るが、句会・吟行への参加、編集への関わりなど忙中隙もなく、妻への供養も少し疎かになっていることを、仏前に詫びていることも事実である。

さて、熊野への吟行も御無沙汰している。

げらげらと打らて熊野の灯といれぬ

特に年末から新年と夏の枯木灘が風ぐ頃には欠かさず串本の庵を基地として、熊野三山や潮の岬から橋杭岩を経て古座川の上流へ句材探しに余念なく過ごしているが、どこか一抹の寂しさを句帳に感じる。

天海を庭から眺めていると、初日の朱色が皓皓と射る眩しさに、妻が側に居るように感じるし、天命の宿る思いすら胸に抱く。

なお、近年は猪も鹿も増えて山樹や畑を荒して古座川の村落の住人を悩ましているが、庵を構えた頃には、猪も鹿も少なく特に狩猟解禁日近くになると、猪も鹿も姿を消してしまうと猟夫(山人等が猟夫となる)が嘆いていたものである。

民宿の主も「猪は解禁日を知っているように思える」と話していた記憶がある。

掲句は、そのような時期に訪れた、

古座川上流の民宿に宿泊した時の句であるが、宿の裏には古座川の支流が流れていて、10分ほど車で向かえば猪の猟場があり、時折銃声が川音に交じりつつ聞こえて来る。

民宿の裏には小川の流れが20メートルほどの断崖(滝の拝と呼ばれている)となっていて、鮎の遡上の行き止まりであるが、ボウズハゼは吸盤を使い断崖を登る姿を見せる。遡上の行き止まりの鮎は引っかけ漁で釣り上げる「とんとん釣り」と言って、重りと大きい釣針で川底を打ちながらの鮎漁である。断崖までの両岸には、梅雨の大雨で運ばれてくる岩の欠片で挟まれた罅穴が50以上も点在する様も、句の材料として幾度か詠んだことがある。

また、民宿への道中には夜振漁・奇岩群・青葉木菟の声・隼の飛翔・山椒魚・投網漁・築打ち・八丁蜻蛉・梟・石尊搔など、大阪や京都近郊では眼にしない季語の宝庫でもある。

失われつつある季語が、そこには存在している。

なお、熊野の句は「三冊の句集」に記録している。

### 〈第一句集「熊野」 平成21年〉

熊野方面を中心の吟行句を中心に。

### 〈第二句集「延命水」 平成26年〉

菩提寺である、須磨寺の延命水より。  
(文学の森出版)

初音して水曼陀羅の熊野かな

つぎつぎと雨呼ぶ紀伊の種井かな

補陀落に冥き波立つ送り南風

### 〈第三句集「岩清水」 平成30年〉

八幡市住人としての「岩清水」。

(東京四季出版)

稻妻や吉凶併せの御籤引く

遠嶺より雲の離るる蛇笏の忌

飯田蛇笏師は「ひこばえ」誌創刊者が師としていた。

立春の日と至らせて江戸硝子

(松花堂) にて

矢と飾る戦の神も旅にかな

(八幡宮) にて

山の水掬ぶ八幡の初御堂

(八幡宮) にて

これからも、石清水八幡宮界限に句材を求め、吟行を続けたいと思っている。

弊誌「ひこばえ」も、本年11月号で、700号の節目を迎える。

700号の重さを感じつつ、継続して行く覚悟を八幡宮に伝えたいと思っている。

## 『きずな』の文芸

## 《俳句》

初雪や化粧したがる鬼瓦  
日の昇る山並黒く息白く  
冬ざれや鉄橋渡る列車音

— やすお

竹林の一夜に刈られ冬銀河  
尼寺のほのかに点る帰り花  
菊晴れや昭乗の筆古色たり

— せい子

昭乗墓へ案内の僧侶石路の花  
浄土模す枯山水や実南天  
鳥居一基対の銀杏の看板

— みやこ

終電や家路の千歩冬銀河  
造成の重機に消ゆる草もみじ  
この道を往けば垣根の冬蠶疊

— 亜矢

「炬燵浴」名付けて母と深々と  
初夢のおのずと身竄肩しておりぬ  
姫始め抓まずありや彼の鼻

— 信

夕食のすき焼きと知り力湧く  
葉牡丹を植えつつ無事を祈る妻  
初春や楽しい事の起きそうな

— 瑞鶴

協賛金のご協力をお願いします

十代の男子の化粧寒桜  
耳カットされて野良猫日向ぼこ  
コロナの世呪いをこめし焚火かな

— 桂

## 《川柳》

あるあると川柳よみて苦笑い  
指先で働くかわいい部下スマホ  
オレオレの電話応対ワシやワシ

— 笑楽

立つ時は何かつかまるもの捜し  
診察券たまつてカルタができるほど  
家ごもりしてる間も老いてゆく

— えつ

## 連句の愉しみ(1) 重悟

私は、八幡の複数の俳句の会に参加しているが、元々は連句がしたかったし、今もしたい。すでに、5年前から京都府連句協会の例会に通っているが、地元の八幡でもやりたい。そんなわけで何人かに声をかけたが反応がよくない。  
式目など難しい面があるのかもしれないが、例えば芭蕉の「古池や蛙

飛込む水の音」は歌仙(三六句)の最初の句(発句)で、其角が脇の句「葦の若葉にかかる蜘蛛の巣」を続けて詠んでいるのである。一句では完結しない物語性や抒情、四季の句だけでなく旅や恋の句を入れるなどバラエティと調和のとれた座の文芸にまで高まっていくのである。

今回は、「三つ物」を例にして、連句の愉しさの一端を紹介してみたい。「三つ物」とは、長句(五七五)・短句(七七)・長句の三句で完結するものである。四季の句をいれてもよいし、無季の句があってもよい。今回は独吟の「三つ物」を紹介する。

風花に故郷の父母の今いかに  
手を赤くして漬菜するころ  
ホシを追う刑事稼業に二十年  
西日浴び吾子載せべダル踏む女  
盛夏セールにはためく幟  
元夫の昨日の電話気にはなる  
梅雨明けの街に沸き立つ神輿振  
路地裏駆ける浴衣着の児ら  
野良猫は顔寄せ合って見守りぬ

ピアノ曲「月の光」に満たされて  
プロムナードは銀杏の並木  
棕鳥がねぐらに帰りかしましく

コンビニにおでん囲んで赤ら顔  
非正規組と交はす爛酒  
気まぐれに詩集広げて読む一夜

白書院襖に虎の睨み居り  
降り積む雪に閉ざされし寺  
御法度の博打興行飽きもせで

著名な俳人の句に続けることも。

夏草に機織車の車輪来て止る 誓子  
スコップ置きて汗を拭はん  
バラックの軒の連なる虜囚の地

## 字句の訂正

お詫びして訂正いたします。  
「きずな」16号7頁 三段目、歌詞の二行目  
(誤) 聞こえます  
(正) 聞こえましょう  
「きずな」17号7頁 二段目、見出し(誤) 八巨椋池干拓遊水地構想  
(正) 巨椋池干拓遊水地構想

(郵) 00940-8-196292 NPO法人22世紀八幡ルネッサンス協会

(銀) 京都銀行男山支店 普通預金 4165224 NPO法人22世紀八幡ルネッサンス協会